

第56回「県展」 -- 彩の国県民芸術文化祭 2006--

5月30日～6月21日まで開催された「県展」の、狭山市からの出展者は次のとおりです。

| 部門 | 賞 | 出展者 | 題名 | 文団連 会員 | 部門 | 賞 | 出展者 | 題名 | 文団連 会員 |
|-----|-----|-------|---------|-----------|----|---|-----------|------------|-----------|
| | | | | | 工芸 | | 大西ハルミ(陶芸) | 2色花紋組鉢 | |
| 日本画 | | 小森正子 | 静かな時間 | | | | 服部光雄(陶芸) | 灰釉葡萄文皿 | |
| | | 渋江幸子 | 萌恵ちゃん | | | | 森泉芳江(陶芸) | 布染コスモス花紋組皿 | |
| | | 宮澤規子 | 煌めく季節に | | | | 音藤幸夫(ガラス) | 花さし(翼) | |
| | | 山崎光雄 | 宵の星 | | | | 鈴木淳(金工) | 市松菓子鉢 | |
| | 運・審 | 鈴木至夫 | 北の岬(積丹) | | | | 杉本恒治(陶芸) | 萩茶碗 | |
| | | | | | | | 鳥山由貴子(陶芸) | 灰釉幾何文鉢 | |
| 洋画 | | 青木一男 | 暖かな久那 | | 招待 | | 植松隆(陶芸) | 加彩泥釉花紋大鉢 | |
| | | 荒巻園彦 | 田植の頃 | | | | | | |
| | | 佐藤榮乃 | たび | | 書 | | 星野惺苑 | 李 詩 | |
| | | 藤代八重子 | 眠りにつくとき | | | | 大坂素秋 | 陶淵明詩 | |
| | | 木村友子 | 星座 | | | | 川村彩雲 | 漱石詩句 | |
| | | 横山雅美 | 刻の情景 | | | | 細田秋僊 | 錢起詩 | |
| | | 北田三代次 | 春日 | | | | 宮原彩霞 | 吹く風 | |
| | | 実松元枝 | Mの風景 | | | | 渡辺不二 | 李白詩 | |
| | | 水野晃一 | 渚 | | 委嘱 | | 牛窪梧十 | 臨蘇東坡 | |
| | 委嘱 | 柏敬子 | 果実 | | | | | | |
| | 招待 | 青木照雄 | 聖祭(2) | | 写真 | | 小谷玲子 | 初春 | |
| | 招待 | 柏 健 | ラビラント | | | | 関根勝正 | 彩(はな) | |
| | | | | | | | 田口定一 | 祭りの親子 | |
| 彫刻 | 招待 | 水村昭二 | 波と雲(木) | | | | 田口正平 | 帰り道 | |
| | | | | | | | 山崎光隆 | 夢のなか | |

注：運・審 = 運営委員・審査員、委嘱 = 出品委嘱。空欄の方は入選者です。(編集：広報委員会)

----- さやま・文化の息吹 -----

映画鑑賞団体 さやま映画クラブ

--- 「たかが、されど」の映画かな ---

私たちの日本語には、古来まことに便利な「言い回し」があります。

一昨年のプロ野球騒動の時、当時のセリーグオーナーの某氏は、選手会長の主張に対し「たかが選手」と発言して、物議をかもしました。

せめてあの時、「されど選手」と一言付け加えていれば、救われたのかも知れませんが。(何しろ野球は「選手」で成り立っているのですからね)

文団連の中では、私たち「さやま映画クラブ」も、実は同じことをいわれそうな気がしています。別に映画など観なくても、生活に支障はありませんし、そのうえ、映画の中味ときたら殆どの場合が「つくりごと」です。「たかが映画」といわれても、仕方がないかも知れませんがね。

でも、一寸お待ちください。皆さんがお好きな絵画、彫刻、音楽、文学、演劇、全ての芸術にわたって、人間の「作り事」でないものはありません。

そして、それが作り事であろうとなかろうと、その作品に込められた作者の表現力とメッセージは、紛れもなき人間の魂の主張です。

映画だって、同じことです。

私たちは毎月第二日曜日、中央図書館で名作映画だけの鑑賞会をしています。「たかが映画」ではなく、「されど映画」ですから。

さやま映画クラブ 会長 本多数義